

偕楽園復興の2年

とも
たの
偕に楽しむ

第10号
偕楽園公園を
愛する市民の会

偕楽園・弘道館復興支援の会を立ち上げ

平成二十三年の総会を準備する役員会の際、東日本大震災で被災した偕楽園と弘道館の復興に向けて本会でも何かする必要があるのではないかと意見が出され、役員有志が検討し、復興募金をよびかけることになりました。国や県の復興への取り組みがあるものの文化財の復興は遅れるのではないかと懸念があり、そこを補うのが市民の活動であると考えたからです。



弘道館前で募金日に五〇以上の団体の参加を得て偕楽園・弘道館復興支援の会の発起人会が開催され、和田会長・湊副会長がそれぞれ会長・副会長に就任し、事務局にも本会役員が加わりました。

偕楽園全面復旧記念式典

平成二十四年二月九日、偕楽園全面復旧記念式典が茨城県主催で挙行されました。折からの氷雨の中、好文亭入口前の広場にテントを張り、多くの関係団体・市民団体から多数の参加者がありました。

主催者として橋本昌茨城県知事が、偕楽園復旧の取組みの経過を報告し、「水戸の梅まつり」を前に偕楽園を全面再開することがで

きたことを喜び、偕楽園の復旧が風評被害に苦しむ本県観光の復興に大きな力になるとの期待を述べられました。最後に復旧にかかわった人々、偕楽園・弘道館復興支援の会をはじめ、支援、協力をいただいた方々へのお礼の言葉がありました。



橋本県知事があいさつする。偕楽園・弘道館復興支援の会が立ち上げられ、復興支援の会々々長として、和田祐之介会長が募金活動への取り組みと達成を述べるあいさつをしました。

式は来賓紹介の後、テープカットで閉会しました。

その後参加者は復旧なった好文亭の披露に参加しました。復旧工事に参加した県職員が要所で復旧の内容や問題点を説明し、参加者から感想や希望を述べるなど、有意義に視察することができました。ひびが残っている箇所と修復したところが微妙に対比され見事に修復されたことに関心させられます。とはいえ、廊下の床板の張り替えなど新築のような装いにやや戸惑うところもありました。

復興支援の会和田会長挨拶

「偕楽園・弘道館」は、このたびの大震災によって大きく損壊しました。一刻も早く復興したいという沢山の方々の声をお聞きし、昨年四月中旬に「偕楽園・弘道館復興支援の会」を立ち上げました。



あいさつする和田会長

十一月ヶ月経過した平成

弘道館の復旧と偕楽園の新施設

弘道館は国の特別史跡であるため、修復には慎重な手順が踏まれました。比較的修復が容易な築地塀の復旧が二十四年末に終わり、二十五年二月には孔子廟本殿の復旧が完了し、特別公開されました。二十五年一月から国の重要な文化財である弘道館正庁・至善堂等の本格的な復旧工事が始まりました。二十六年三月までには復旧が完了する予定です。

偕楽園では、本園内東門脇の旧東門売店「見晴亭」の跡地に「偕楽園インフォメーションセンター」(仮称)が来年二月完成に向けて建設することが決まりました。この施設は、床面積一六〇㎡の木造平屋建てで、観光案内や休憩、救護などに使われる予定です。ボランティアや関係者から要望が強く、復興



「偕楽園インフォメーションセンター」支援の会の要望にもあった施設です。偕楽園の通年観光や非常時の対応の拠点としての機能をも果たすこととなります。復興支援募金の残額が建設資金の一部に充てられます。

水戸の歴史資産「偕楽園と弘道館」の魅力を子供たちに伝える活動

日本ユネスコ協会「第4回プロジェクト未来遺産」に登録

平成二十四年十二月三日、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟から当会の「水戸の歴史資産「偕楽園と弘道館」の魅力」を「第4回プロジェクト未来遺産」に登録することが発表されました。



公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 プロジェクト未来遺産2012
水戸の歴史資産「偕楽園と弘道館」の魅力を子どもたちに伝える活動茨城県水戸市

未来遺産運動とは「100年後の子どもたちに長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を

伝えるための運動」です。また、プロジェクト未来遺産は「長い歴史を越えて人々が紡ぎ続けてきた文化遺産や自然とともに生きる知恵や工夫の中でつくりあげてきた自然遺産という豊かな贈り物に光を当ててそれを未来に伝えていこう」という人々の意欲を活性化させることにより、時代を切り拓いていこうとするものです。(詳細は日本ユネスコ協会連盟のホームページ <http://www.unesco.or.jp/>)

登録証伝達式

平成二十五年三月二日、水戸市総合教育研究所三階視聴覚ホールで日本ユネスコ協会連盟の主催により「第4回プロジェクト未来遺産」の登録証伝達式が開催されました。同連盟の選考委員矢野和之氏から和田会長に登録証と目録が伝達されました。その後、茨城県教育委員会小野寺俊教育長、高橋靖水戸市長、水戸市教育委員会本多委員、清水峰教育長、および水戸ユネスコ協会宇佐見恵子会長からお祝いのご挨拶をいた



登録証の伝達

だきましました。続いて、水戸市のマスコットキャラクター「みとちゃん」がかけつけ、和田会長から高橋市長へ贈呈する目録が渡されました。この式は、本年度最後の論語塾に続いて開催されたので、その受講生も多数参加し、「みとちゃん」と記念写真を撮るなど盛り上がり、翌日の新聞でも報道されました。

偕楽園と弘道館の世界遺産登録を支援します

水戸市では偕楽園と弘道館を世界遺産に登録する運動を進めています。今回の当会が認められたプロジェクト未来遺産への登録は、これと直接つながるものではありません。しかし、当会の活動を「水戸の歴史資産「偕楽園と弘道館」の魅力」を子どもたちに伝える活動」として、同じユネスコに属する民間組織から認められたことが、水戸市の世界遺産登録運動を市民団体が側面から応援することになります。今後当会の行事で偕楽園と弘道館の世界遺産登録を支援していこうと思います。



撮影記念として、水戸市のマスコットキャラクター「みとちゃん」がかけつけ、和田会長から高橋市長へ贈呈する目録が渡されました。



好文亭模型
水戸市城東居住の齋藤哲夫氏から貸与していただいた、自作の「好文亭模型」を展示しました。



親子工作教室
たが、「広報みと」の案内を見て来場される人が増えました。また、秋まつりの期間と重なっていたので、ウォーキングの途中に立ち寄った

り、ガイドの人びとが休憩に寄るなど、関係者の見学が多くありました。見学者は全部で約五五〇名でした。

